

ふれるかたち

Touching Sculptures

視覚だけではなく、触覚も動員して鑑賞する展覧会「ふれるかたち」は今回で11回目を迎えます。

今回は、かたちを単に手でなぞるだけではなく、素材のもつ感触に着目してみます。素材にはそのものもつ独自の

温度があります。「冷たそう」「あたたかそう」という感覚は、作品の印象を強くし、表現の成立に大きく貢献しています。ここではそれぞれの温度を感じることから、素材の多様性をじっくり味わってみてください。

冷たい感じ

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
1	ヤーコブ・アガム	鼓動する心臓(ムード)	1972	ステンレススチール
2	三木富雄	耳	1965(昭和40)頃	アルミニウム
3	金沢健一	音のかけら N5	2000(平成12)	鉄、ゴム
4	家住利男	V. 010702	2002(平成14)	板ガラス:接着、ハンドグラインダーによる彫刻、研磨
5	高田博厚	美しきエミー	1963(昭和38)	ブロンズ

あたたかい感じ

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
6	中村木美	青と黄	1988(昭和63)	木綿糸、金属棒・マクラメ技法
7	峯田敏郎	2DK	1975(昭和50)	木(ホオノキ)

何度？

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
8	板津邦夫	紋	1965(昭和40)	木(ニレ)
9	流政之	ナガレバチ	1998(平成10)	大理石
10	安田侃	対話	1974~75(昭和49~50)	大理石
11	本田明二	黒い首	1953(昭和28)	木(マカバ)
12	畠山三代喜	春告譜	1981(昭和56)	銅板・彫鍛金